

一関工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	化学 I A
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	未来創造工学科 (一般科目)		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書、参考書: 化学基礎(竹内敬人 他、東京書籍)、リードα化学基礎+化学(数研出版編集部、数研出版)、ニューレツトトライノート化学基礎vol.2(東京書籍編集部、東京書籍)、フォトサイエンス化学図録(黒杭清治、数研出版)、スタディサプリ				
担当教員	中川 裕子,木村 寛恵				
到達目標					
物質の構成、性質、変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、原子、分子の立場で考察する能力や探究心を育む。実験動画を活用することで化学現象を学び、実践的な技術能力を養う。【教育目標】C					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
物質の成分と構成元素について理解することができる。	純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		純物質と混合物、単体と化合物、元素の確認、物質の状態変化、粒子の熱運動について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。
原子の構造と原子の周期表について理解することができる。	原子の構造と原子の周期表について基本事項を説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		原子の構造と原子の周期表について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		原子の構造と原子の周期表について基本事項を理解できず、関連する基本問題を解くことができない。
化学結合について理解することができる。	イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		イオン結合とイオン結晶、共有結合とその結晶、配位結合、金属結合と金属結晶、分子結晶について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。
物質質量と化学反応式について理解することができる。	原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について説明でき、関連する基本問題、応用問題を解くことができる。		原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について説明でき、関連する基本問題を解くことができる。		原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度化学反応式とその量的関係について理解できず、関連する基本問題を解くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育目標 C					
教育方法等					
概要	物質の構成、性質、変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、原子、分子の立場で考察する能力や探究心を育む。実験動画を活用することで化学現象を学び、実践的な技術能力を養う。				
授業の進め方・方法	理解を深めるために演習や演示実験も行う。授業に関連した内容の実験動画を活用する。自学自習には、スタディサプリ、moodleおよび問題集を活用する。場合に応じて宿題を課す。				
注意点	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の該当する授業範囲を読み、前回の授業内容を復習して次の授業に臨むこと。</li> <li>ものづくり実験実習Cに関わる内容もあるので注意すること。</li> <li>定期試験は、既学習範囲から重要事項を出題する。</li> </ul> <p>【評価方法・評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試験結果(80%)課題(20%)で評価する。</li> <li>物質に関する化学的な基本概念、原理、法則、化学用語、化学式・化学反応式の活用、物質の性質、反応、物質の量的関係の理解の程度を評価する。</li> <li>総合成績50点以上を単位修得とする。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	化学と人間の生活 化学と情報技術伝達	化学を学習する意義を理解できる。実験動画配信による学習の情報セキュリティについて理解することができる。	
		2週	物質の探求	物質の分類、分離、物質の状態について理解できる。内容に沿った実験動画から化学現象を理解できる。	
		3週	原子の構造と元素の周期表	原子の構造、元素の分類方法、元素の周期表を理解できる。内容に沿った実験動画から化学現象を理解できる。	
		4週	原子の構造と元素の周期表	原子の構造、元素の分類方法、元素の周期表を理解できる。	
		5週	化学結合	様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。	
		6週	化学結合	様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。内容に沿った実験動画から化学現象を理解できる。	
		7週	化学結合	様々な化学結合のしくみと性質、物質の成り立ちについて理解できる。	

	8週	中間試験	
2ndQ	9週	原子量・分子量・式量	物質の相対質量である原子量、分子量、式量が理解できる。内容に沿った実験動画から化学現象を理解できる。
	10週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
	11週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
	12週	物質質量	物質の量について考える方法である物質質量が理解できる。
	13週	溶液の濃度	物質質量を用いた溶液の濃度が計算できる。
	14週	化学反応式	化学反応式を書くことができる。内容に沿った実験動画から化学現象を理解できる。
	15週	期末試験	
	16週	まとめ	内容を理解できる。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学	化学と現代の社会課題との関連性について説明できる。	3	前1,前6,前7
			物質が原子からできていることについて説明できる。	3	前2,前3
			単体と化合物について説明できる。	3	前2,前3
			同素体について説明できる。	3	前2,前3
			純物質と混合物の区別について説明できる。	3	前1,前2
			混合物の分離法について理解し、適切な分離法を選択できる。	3	前1,前2
			物質を構成する分子・原子が常に熱運動していることについて説明できる。	3	前3,前4
			水の状態変化について説明できる。	2	前3,前4
			物質の三態とその状態変化について説明できる。	2	前3,前4
			原子の構造（原子核・電子）や原子番号、質量数について説明できる。	3	前3,前4
			同位体・放射性同位体について説明できる。	3	前3,前4
			原子の電子配置について電子殻を用いて書き表すことができる。	3	前3,前4,前5
			価電子の働きについて説明できる。	3	前3,前4,前5
			イオン化エネルギーと電子親和力について説明できる。	3	前4,前5,前6
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	前4,前5,前6
			原子番号と価電子の数との関係について考えることができる。	3	前4,前5,前6
			元素の性質について価電子と周期律から考えることができる。	3	前4,前5,前6
			イオンの化学式とイオンの名称について説明できる。	3	前4,前5,前6
			イオン結合について説明できる。	3	前5,前6
			イオン結晶の性質について説明できる。	2	前5,前6
			共有結合について説明できる。	3	前6,前7
			極性と水素結合について説明できる。	2	前6,前7
			構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	
			自由電子と金属結合について説明できる。	3	前6,前7
			金属の性質について説明できる。	2	前6,前7
			原子の相対質量と原子量について説明できる。	3	前9,前10
			物質質量（mol）を用い物質の量を表すことができる。	3	前9,前10
			分子量・式量について説明できる。	3	前10,前11,前12
気体の体積と物質質量の関係について説明できる。	3	前10,前11,前12			
化学反応式について反応物、生成物、係数を理解し、組み立てることができる。	3	前12,前13,前14			
化学反応式を用いて化学量論的な計算ができる。	3	前12,前13,前14			
電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3	前12,前13			
質量パーセント濃度について説明でき、質量パーセント濃度の計算ができる。	3	前12,前13			
モル濃度について説明でき、モル濃度の計算ができる。	3	前12,前13			

### 評価割合

	課題	試験	合計
総合評価割合	20	80	100
総合評価	20	80	100

専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0